

単元名 式と計算 (大日本図書)

目指す児童の姿

- ・おつりを求める方法について、多様な考えをもち、自分の言葉で表現できる。
- ・言葉で式を表したり、数式の意味を言葉で説明したりして、計算の決まりについての理解を深めることができる。

指導例 ～事象を数学的に解釈し筋道を立てて考えることができるために～

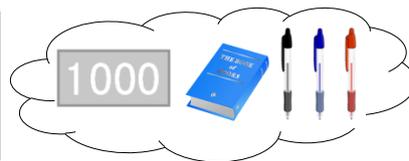
- 1 単純な買い物場面で、おつりを求める式を考え、言葉の式で表す。

花子さんは1000円持って買い物に出かけました。
600円の筆箱を買うとおつりはいくらになりますか。



- 2 複数の物を買う場面で、おつりを1つの式に表す。

たろうさんは1000円持って買い物に出かけました。
500円の本1冊と1本100円のペン3本を買いました。
おつりはいくらになりますか。



- 3 数式の意味や計算の順序を自分の言葉で説明できるように考える。
- 4 考えたことを交流し合い、()と四則の混合した式の計算の順序について理解を深める。

指導計画

時間	ねらい・学習活動
1	二つの式で表せる場面を、()を用いて一つの式に表すことができる。
2	()を用いた式の計算の順序を考え、表現することができる。
3	四則の混合した式について、計算の順序の決まりを知る。
4	四則の混合した式や()を用いた式について、計算の順序の決まりを知る。
5 本時	場面に応じて、四則の混合した式や()を用いた式に表したり、その式を説明したりする。
6	●や○の個数の求め方を式で表したり、式から求め方を考えたりする。
7	分配法則が成り立つことを理解し、加法、乗法の交換法則や結合法則とともに、記号を用いてまとめたり、それらの法則を用いて、計算を工夫したりすることができる。
8	「きほんのたしかめ」に取り組む。



指導のポイント

- ◇授業の始めに前時までの学習内容を確認する。
- ◇イラストや値段などを板書し、本時の課題が把握しやすいようにする。
- ◇自分の考えを言葉で表現する時間を十分に確保する。
- ◇机間指導をしながら、一つの式に表すこと、()を用いることなど、前時までの学習を想起させる。
- ◇類似問題を解き、理解を深めさせる。